

都市における非行発生と地域性の関係

(3) 間接的指標について

倉 島 敬 治

問 題

今までに、(1)粗暴非行について第一報で、(2)抑止条件について第二報で報告してきたが、今回は都市における非行発生と抑止条件について特に間接的指標からの接近を試みたい。前二報は主として、都市における非行発生と地域性の関係を特定都市（北上市）を中心に他都市、他の農山村との比較をしながら、非行発生（抑止）の直接的指標を重点的にとらえようとしてきたのである。

本研究の特徴は縦断的、継続的かつ構造的な視点に立って計画されているところにある。

しかしながら、第一報での計画設定では、非行発生（抑止）の直接的（一般的）指標を仮説として提出していたのであるが、今までの報告では、今回取りあげた間接的指標については宿題としていずれ取りあげることを予告していただけであった。

それでも、直接的指標との関連から、特に第二報（前回）では2、3言及していたので、重複は避けるようにして残された間接的指標について重点的に論及しておきたい。

ここで、第一報¹⁾で取りあげた間接的（一般的）指標を再掲して、整理をし明確にしておく。次の4つの一般的指標をあげた。

- ① 産業構造、人口、所得、工業化率。
- ② 中卒者、高卒者の進路状況及び職業、進学の将来的展望、意識構造。
- ③ 都市の青少年労働力の吸収力、定着性。
- ④ 都市の青少年の社会化深度、都市の類型。

これらのうち、①については前回報告の中で実際に資料として提示しておいたし、③と④の一部、都市の類型を青少年の労働力の吸収力、定着性から社会化深度を基準にして行っており、第一報(1)粗暴非行について、では質的側面から第二報で(2)、抑止条件について、では量的側面から試みている。

従って、残る指標、②中卒者、高卒者の進路状況及び、職業、進学の将来的展望、意識構造について調査、面接法により得られた結果の分析をもとに、これらの間接的指標が、犯罪・非行発生の直接因（直接的指標）とどのように関係を持っているのか検討していきたい。

I 研究目的

現在の犯罪心理学研究の到達水準では、間接的指標→直接的指標→犯罪・非行の発生という必然的関係(因果)が定立しているとは言い難い。2) 3)

むしろ、蓋然的関係をなんとかして把握するべく努力しているのが現状であると言えるのではないかと思われる。

青少年が生活する場の状況からまず見つめていかねばならない。家庭、学校、職場、地域性、産業構造、これらが彼等の進学、就職にあたって将来への展望はどのようなものであるか、又、現実と彼等の認識している実体との違いも同時にとらえねばならないだろう。

そこで、次のような仮説を立て、それに対して予想される蓋然的因果関係を想定することにし、それを明らかにしようと試みたのである。現実検証の方法としては実態調査を質問紙法によるものとそれを補うものとして面接法を用いた。

以下は、この構想を一覧表にして示したものであり、これらにもとづいて調査項目が立てられることになる。

仮説4)

A. 出かせぎ

親、同胞の地元への定着性、地元産業の彼等の労働力の吸収力は 都市部>周辺部>僻地(農山村)の順になるか、どうか。

1. 職業選択

職もなく又戻るべき家の座もないことから僻地の青少年は一生の仕事を真剣に選ぶだろう、手に職をつける数は

僻地>都市

それで職業の選択巾も狭くなるだろう。

選択数では

僻地<都市部

中卒者<高卒者

専門教育<普通教育

流行、マス・コミの影響を受け易いのは選択の失敗の許されない者より余裕のある者の方が強く受けるだろう。

僻地<都市, 周辺

男性<女性

性差による社会的地位、責任の自覚などが関係しているだろう。

2. 相談相手

出かせぎが父、同胞、母の順に多いが、相談相手

予想される方向

北上市の場合、工業都市への転換を推進しているが、誘致企業の労働力吸収力は高い筈だから、親、同胞は他の地域よりは出かせぎが少ないだろう。同様に青少年の地元就職者も多くなる筈である。

職業情報が豊かか不足しているかでも結果は変わる。真剣と言っても中学3年では将来の見通しは十分きかないだろう。Uターンではなく、僻地→大都市→県内市町というJターンとなるだろう。

僻地、中卒者は現実に希望しても無理だから、あきらめも入ってくる。希望の段階と実際とは逆になるかも知れない。

都市の少年は親への依存(甘え)から、この傾向は強まっているだろう。非行(ぐ犯)とは結びつき易いだろう。特に都市周辺部が最大となるだろう。

常識的には左の仮説は予想される。親子関係が親

2) 遠藤辰雄 犯罪心理学研究の現状「犯罪心理学研究」1巻1号 1963.

3) 安香宏、青島文夫 犯罪者と犯罪行動「犯罪心理学」第2編第1章 有斐閣 1975.

4) 仮説には、総理府青少年対策本部 青少年の連帯感などに関する調査 1971. (全国編)その他を参照した。

として父が不在のことが多く、選ばれないだろう。これまでの調査でも父は相談相手に選ばれにくい傾向があった。⁵⁾教師も同様に少ないのである。

僻地；(母) > 都市 (父)

女子；母 > 父

男子；母 < 父

又、家父長制が伝統的に残っていれば就職についての発言権、決定権が強いので、次の

父 \geq 母

ことも考えられる。

3. 就職場所

地方都市、農山漁村の青少年は一般に大都市志向性が強い。それにはいろいろ理由があるが、場所選定の動機にもなっている。

大都市 > 中小都市 (県内) > 農山村

県外 > 県内

地元外 > 地元内

若年青少年 > 成人

逆に、余程のことがないと農山村志向性は表面に出て来ない。

女子 > 男子

これは女子の社会的地位や存在の意味役割が、劣っているためとも考えられる。

逆に、女子は家庭からの経済的期待も少なく、生活上の切実感の乏しい場合、一層、都市志向性が強まる。

4. 都市選択の強度

これは、更に具体例をあげて、都市志向性の強さを知らうとしたものである。

< 僻地 >

都市 < 農山村、願望としては地元に残りたい。しかし結果として

都市 > 農山村

< 都市 >

都市 > 農山村

地方中小都市の場合、ほとんど農山村志向は居ないか少ない。

5. 経済的収入と都市志向性

これは次の2類型に分けられそうだ。

(1) 地元志向型…この型に所属する者は、給料が都会よりも安くても地元に残りたいと願う気持の強い

密であり信頼関係が存在すれば、必ずしも父は疎外されるわけではない。出かせぎの父は広く世間の就職状況など職業情報を得ており、そのため相談相手に選ばれるから、予想よりは多く選ばれるだろう。

僻地；母 \leq 父，都市

都市では逆の場合も起こりうるのではないか。

久しく会わない父は時代の動きを知っており、僻地に帰って来た時、相談相手になると思われる。

動機、理由とのかかわり具合で変動することが予想される。

(1) 生活、就職上の切実な問題として、

a) 仕事、職場が少ない。あっても希望するものがない。

b) 待遇が悪い。

(2) 教育、文化、娯楽面の優位な都会は面白く魅力的である。

(3) あこがれ、都市願望からくる志向性が心理的に働いている。

一般に、公害、居住環境(住居)の悪さがあっても、この傾向は持続していると思われる。従って、仮説の多くは調査でも支持されるだろう。

僻地と都市部の都市志向性の質的な違いは数の上では現われない。

具体例であっても仮定であるから、現実には親、きょうだい、先輩が僻地においては流出していくのである。食えないのだし、しかたない(あきらめ状態)ので都市志向になるし、都市への興味、関心も加味されて、明確に本人といえども区別しにくいだろう。従ってはっきりした傾向はつかめないだろう。

現在、自分がどこに住んでいるかで、自分の問題として直接受けとる場合と、都市に居住する場合とは最初から志向性は質的に異なるだろう。

ものである。都市生活に対する不安や家庭の事情も裏に存在するが明確に区別できない。

(2) 都市志向型…都市への志向性は次問の理由にあるように、さまざまである。

①経済収入が保証されれば残ってもいいと思う人が入る。農山村へとどまる誘惑性は収入が都市と同じかそれ以上と答える者が該当する。

②都市の職場での没主体性、管理下に組み込まれ工場での流れ作業、単純作業への抵抗が含まれている。そのため主体性の確保が求められる。

③その他の理由
便利で娯楽が多くて面白い、教育や文化の程度が高い、都会にあこがれて、希望する仕事、職場がないをあげている人で、これらを犠牲にして農山村に行くか、とどまるかは待遇が都市と同じかそれ以上ならば農山村へという者である。

これら、①②③が単一、あるいは複合されていると考えられる。仮説としては、都市志向型が多いだろう。

6. 流出理由

この場合も、流出する人を (1)、自分も含めて考える、(2)、自分ではなく他人が流出すると考える、二通りの見方が可能である。

当然、自我関与の強さが答えを左右することが予想される。

(1)の場合

僻地> 都市

(2)の場合

僻地< 都市

更に、自分の居住する地域の産業、生活の基盤、労働する職場の将来性の認識の深浅に関与して行く。

理由1 都市<僻地

理由2 " <"

理由3 " >"

理由4 " >"

" 5 両方とも少

" 6 都市>僻地

都市部、その周辺では比較的、親の経済力もあって生活は豊かであり、青少年の労働収入に依存する割合は低い。北上市の場合は特にこの傾向が強い。

職場が気に入らなかつたり、面白くなかつたりして辞めても、青少年が半年1年や徒食しても面倒を

都市の場合は都市への流出傾向に逆らうわけだから、心的抵抗は大きい。

農山村居住者は理由①>③>②となるのではないかと、

都市居住者は逆に理由②>③>①になるのではないかと予想される。③についての情報は先輩や職業情報によってうすうす知っていても実感として意志決定にまで影響することは少ないように思われる。①と②の優先順位は居住する地域性と将来への展望に依存するのではないかと。

都市生活をしている青少年はその都市生活の感覚から、合理的経済観念が発達していて、金銭優位になり易いこともあって、中小都市ないしは大都市に志向することが多い。

反面、農山村の青少年は生活がなりたないからと考えている場合収入が保証されれば地元に残りたいと希望するのではないかと。

現代的金銭観、労働観、人間観の成立度合が問われてくる。

これは質問紙だけでは究明し得ないので、面接法による質的吟味が必要となる。

<僻地>; いずれは都市あるいは地元外に就職のため出て行かなければ、就職も出来ないし生活が成立たない状況にあるから、出ていくのだという切実感が強い。

<都市>; 農山村より職種、職場は多いが希望するものとなると必ずしも保証されているわけではない。誘致企業は次第に増えて多くなってきても、青少年向きというよりは、地方の成人余剰労働力を吸収し、低賃銀で確保できるという企業サイドの計算の方が強く、必ずしも将来性を青少年に約束していない。

理由1~6までの仮説はほぼ予想通りの関係となるであろう。

僻地の青少年は逃げ帰る家も場所もない切迫感を小さい時から思い知らされている。

作文や主張に現われてないとしても、背負わされた運命とあきらめているのだろう。

親の出かせぎ、兄姉の流出と同じように自分も生まれ育った土地をいずれは去るのだと悟っている一誰が何と言おうとも避けられないと受けとめている。

みる余裕がある、従って青少年達は一寸面白くなかったり、嫌なことがあれば容易に転退職する。

親に対する依存的安易な心情ははたらき、労働観、人生観も安逸に流れ易い。

7. 「主体性のある職業」への志向性

大都市、大企業の工場に就職していった先輩の帰郷時の口コミや新聞、雑誌、TVなどから、大都市での無関心、無干渉、没主体性、大工場のベルトコンベアーの前での単純作業のつまらなさを聞かされて、自然と近親者のいる地元や主体性を保持しうる職業への志向性は強いと思われる。同時に工業中心の戦後の経済政策に親もろともに巻き込まれていて、農業が蔑視され生産性が低く青少年にも農業嫌忌の傾向が強くなっている。しかし、主体性は最も高く保持されて、その意味では極めて魅力的なものと思われる。

サラリーマン>自営

↓

〃 <自営

この傾向は情報の多い

僻地<都市

都市部の青少年に強く出て来るであろう。

生活環境の悪さ、仕事の味気なさを認めている者が増えているので結果的には自営の方が多くなる。

8~9, 労働観, 金銭観, 親子関係の見方,

近代的合理主義がこれらの態度に影響を及ぼして、親子と言えども、子どもの労働に対して相応の賃金を代償として支払うべきだという都市青少年の多いことから、家の仕事の手伝いに対して金を要求すると答え、且つ親だったら金をやると答えるものが、次の

都市> 僻地

専門大学>高校>中学

の関係で多くなる。

逆に、金を要求しない一金をやらない……という共同体的親子観、金銭観、労働観は逆の順序で多くなるだろう。親子は同じ家族の生計をとにもするものだから、金で処理すべきでなく、自分の家の仕事なのだから、金銭に関係なく手伝うものだとする考え方である。

これらの仮説から、犯罪・非行の発生と間接的であっても指標となりうるものがあるか。

「主体性のある職業」は農山村にあるとすれば予想通りの結果が得られるだろう。

しかし、生活が成立するような生産性が確保されていない状況では、現実が優先するため〜としたら…という仮定は実感として受け入れられない。

その為、農山村の青少年は現実にも強くひばられてサラリーマン志向への答が多くなるか、仮定と現実の葛藤が内在したまま わからない(その他)という答えが多くなるのではないかと予想される。

面接法がこの問題に対しての解答を得るのに用意されるべきだろう。

都市や他地域に流出しても、結局、特別に期待しているものがない……という情報を持ち、且つ選択の余地のある青少年は農山村志向に変わるか、一度は経験、冒険のため出てみたいと思う人は都市志向を堅持するだろう。

農業労働も季節の繁忙な時、日当が相場によって支払われる今日、果してこのような仮説通りに価値観が予想されるか疑問である。

耕地の少ない山村僻地ならともかく、周辺部ではむしろ、都市部の青少年より、合理的打算的農業労働観を持つことが多いのではないか。

周辺>都市>僻地

専門、大学、高校、中学の差は必ずしも成立しないし、地域差の要因の方が強いのではないかと予想される。

又、これらの価値観が、仮定の話の答えに直接的に現われてくるかも疑問のところである。

共同体的な共同作業が現在まで持続しているかどうか出かせぎの実態から疑問である。

A 出かせぎ、これは、地元への就職、すなわち定着性が、親、同胞の出かせぎ率の高いことから低いと考えられ、そのため、生活感情、価値観の違う世界への適応の難かしさにかかってきて、間接的な指標となりうる。

1の職業選択も同様、である。学歴、専門性が将来性、定着性を左右する。そのため都市適応の間接的指標になりうる。

就職場所は、社会、文化的差異が、どのように流出した青少年に受けとられ処理されるかにかかってくる。

地域志向性は希望しているものと、実際に選ぶことの可能性との差異が葛藤を起すかどうかにかかってくると、間接的指標になりうる。都市志向の理由、流出の理由も、「主体性のある職業」への志向も、青少年の将来への可能性や生活設計の確立に強く影響してくる。流出青少年の転退職の多いことは調査でも明らかになっている。それは都会での生活のしにくさ、人間関係の孤立、不安感の増大など社会適応を著しく低下させている。

特に労働観、金銭観、親子観にみられる価値観の前近代性が強く残っていれば、都市での生活、いろいろな地域からの青少年労働者の多い職場では適応するのに大きな障害ともなる。現代風の合理主義的価値観も（良し悪しは別）都市生活、職場での雇庸関係では必要となってくるからである。

このように、都市化、地域の社会化深度から類型化の基礎的裏付けをするとともに、職業適応の難易から、間接的指標を設定し、その定位を目指した。

青少年は日常 この出かせぎを実感として受けとめているかどうか、僻地では当然切実な問題として受けられている。しかし、必ずしも僻地の青少年がこれらのことを深刻な自分の将来の問題と結びつけて悩んでいるとは限らない。即ち、想像することは出来ても経験していない別の土地での生活を想定するのは難しい。

しかし、都市部の青少年よりは戻るべき場所がない彼等は受けとり方が違うことは確かだろう。

犯罪・非行発生への間接的指標となりうるかどうかは、両義的解釈が可能のため、かなり困難な指標が多い。

例えば、職業選択では、僻地の青少年は一生の仕事、将来への自立が可能なるものを数少ない職種の中から慎重に選ぶとする。

そして年季を入れて専門性を高めようと努めるか、途中で放棄するかで道は分かれる。

出かせぎと相談相手の指標では、たまに会う父親と少ない限られた時間内で積極的に話し合おうとするため、かえって結びつきが強められる。

就職場所と都市志向性はどうせ地元に残れないなら、県外の大都市、大企業のある地域を選ぶとする。その際、都市の労働観、金銭観と葛藤が生じ易い僻地の青少年は適応が難しくなる。

意識の上で、自分のふさわしい県内、あるいは東北地区内の都市へJターンをするとしても、地元へは戻らない。

それで、更に主体性の発揮できる職業を志向するし、そのことが保証される最低限の地域までを考えて選択するのではないかと思われる。

II 調査計画

既に述べた目的と仮説の検証のため、次のような計画を立てて実施した。

1. 方法。

質問紙法、面接法。質問紙は調査仮説にもとづいて、付録にあるような項目を作成し、無記名で実施した。

A 性別、同胞内順位、家族の出かせぎ。

- (1) 希望職業選択
- (2) 相談相手
- (3) 就職場所（場所はリスト呈示）
- (4) 都市志向性の強さ
- (5) 給料と都市志向性

(6) 流出理由

(7) 主体性のある職業への志向性

(8) 労働観、金銭観、親子観

面接法はサンプル対象に対してのみ、内容、質的吟味もかねて、実施した。

2. 実施年度

第1回、昭和46年～47年。

第2回、昭和49年～50年。

3. 調査対象

中学、高校、専門学校、大学の生徒、学生、進路決定すべき学年を主としたが、大学のみ2年生とした。(大学は昭和46年限り)

4. 調査地、及び調査校。

表1 調査地及び調査実施校

年 度	調 査 地	校 名	性 別	調 査 数	
昭和 46～47年 第1回	市 内 (北 上)	B 中 学 校	男	50名	
			女	39名	
				計	89名
		C 中 学 校	男	31名	
			女	44名	
				計	75名
	周 辺	D 中 学 校	男	98名	
			女	62名	
				計	160名
	僻 地	E 中 学 校	男	31名	
女			24名		
			計	55名	
市 内 〃	*A 高 校 B 〃	女	177名		
		男	274名		
市 内 市 外	A 専 門	女	58名		
		男	30名		
	*B 専 門 (大 学)	女	49名		
		計	79名		
昭和 49～50年 第2回	市 内	B 中 学 校	男	49名	
			女	42名	
			計	91名	
	僻 地	E 中 学 校	男	21名	
			女	24名	
			計	45名	
	市 内	*A 高 校 B 〃	女	88名	
男			282名		
A 専 門		女	86名		

*印 3～4クラスを1学年からランダムサンプリングした。他は全数調査。

Ⅲ 結果と考察

結果は付表1～付表9～2まで粗数(実数)で示した通りになった。これをもとに仮説と対照しながら、第1回と第2回との比較、変化をも含めて考察したい。

1 出かせぎ

教示によって1カ月以上家を離れている出かせぎに限ったが、親のいずれかが出かせぎに行っている割合は仮説通り、僻地>周辺部>都市部の順に多くなった。僻地は20%以上、周辺部は10%、都市部は10%以下が多かった。従ってその地域への定着性、労働力の吸収力は逆の関係になり、同胞(兄弟)の流出はこの関係に対応していた。(付表1)

北上市では、青少年の希望する職種、職場は十分でないと言っても、吸収力はかなりあることがわかる。昭和49年度の結果も同様な傾向があった。B高校の場合、農村部からの生徒も比較的多いが、それでも10%余である。

2 職業選択

手に職をつけて生涯にわたる安定した自立の可能になる職種、修理工、和洋裁、大工、運転手、理美容などは僻地>都市、中学>高校以上となっている。又、門戸が閉ざされていることが面接法で判った。職業の選択巾も仮説通りになった。調査人数の差も考慮しなければならないが、それでも選択範囲は定まってくる傾向がある。中学校では周辺部>都市部となっているが、進学率が高まっていて、都市部の中学では3年～4年先の高卒時を想定して現実感が乏しく、漠然とした興味、関心しか持っていないことが面接法で裏付けられた。僻地<都市部、専門教育<普通教育、は明らかに存在した。性差は中学ではあるが高校は逆になった。これは、女子労働が比較的横に融通のきく職種が多いことと、高卒の場合はそれだけ求人が広範囲にわたることなどからと考えられる。調査数に関係なく、専門教育を受けるA専門では選択巾は狭くなっている。職種の順位では中学、高校女子専門Aではあまり変化はないが、高校男子では時代の不況を反映してか1位から3位まで公務員がトップにランクしたのは職業選択における社会的影響の敏感さを示しており、興味深い。これは全く予想していなかったものである。(付表2-2, 49年B高)。

3 相談相手

予想によれば、出かせぎの多い僻地中では父が選ばれる数は母よりも少ないとしたが、両者とも同数であった。中学段階では周辺部を除きほぼ同程度に両親が選ばれていた。周辺部では男女ともに母親の方が多くなっている。面接法では母親の方が話し易いし我儘がきく、父は家にいるが落着いて話せないとあったが、兼業農家、専従者が多く多忙のためらしい。しかし、出かせぎの父は世間が広いこと、職業情報を多く持っていること、長期間会えないので帰郷時によく相談するようだ。

家父長制の存続という仮説と男子は父、女子は母という仮説は支持されなかった。高校以上になると性の一致はある程度認められる。第1回、第2回ともにこの傾向は認められる。(付表3, 3-2参照。)

更に、教師は僻地中学、高校Bでは比較的よく選ばれている。前者は父の不在、教師の指導が行き届く、などがあげられ、後者は進路相談が組織的に行われていることが面接法で判明した。ここで、僻地中学の教師の報告では父の出かせぎ、兄弟の流出で、家庭内の人間関係は親密さがなく、頼りない、不安定な家庭となっているという。出かせぎ先との文通も少

ないし、親子の結びつきも弱くなり、父の帰郷時も互に遠慮がちな場合が多いのです……とあるが、これはそのまま受け入れることはできない。もう少し、彼等の親子関係の実相を探る努力が必要だろう。

B高の2回目調査で教師の選択数が減少しているのは注目に値する。

4 就職場所

学校段階別、性別でかなり傾向が違っていた。中学で地元北上市を1位に選んだ者は、C中学女子を除いては一番多かった。周辺D中学でも最多数を示した。僻地では交通、経済関係が薄く1位に選ばれていないが、それでも男子は3位に選んでいる者が1名、県内での労働力吸収性、魅力は低いものとなっている。僻地中では予想通り県内都市では盛岡(1位)次が東京、静岡と県外へ遠く流出する。総数(1~3位まで)ではB中男子、C中男子、D中女子、以外は北上市より盛岡を選んでいて、より大きい都市への傾向は強い。県外の仙台、東京、横浜などの大都市志向性は仮説通りであった。

大都市への志向性は高校生以上になると顕著になる。専門性が高まるにつれて地元産業、誘致企業の職域の広さに限界が出てきて、希望する職種に対する労働吸収力は低下すると考えられる。高校A女子は1位に東京、仙台、が共にトップで次に県都盛岡となっている。高校B男子では仙台、東京、盛岡、北上となっている。1~3位の総数では女子A高、仙台、東京、盛岡、北上、横浜となる。同様に男子B高、仙台、千葉、東京、盛岡、静岡、北上、横浜、となり、県外が上位を占め北上は下位に転ずる。専門Aでは仙台、盛岡、東京、北上の順になっている。専門Bは盛岡、仙台となっている。居住、勤務地ともに地元→県内→東北の大都市→関東の大都市の志向性があったとしても、専門性の需要は少ないので、次の可能性のある地域へと変えていくものと思われる。

北上市の場合、工業化の進展は目ざましいとしても、吸収力は青少年を定着させる力は尚、弱いものと思われる。調査前の予想通りの結果になった。

なかでも都市志向性は女子>男子が強く現われている。これは流出理由のところでも再度言及するのでそちらにゆずる。

第2回目では、僻地中Eで男子は東京、盛岡の順で1位としたが、1~3位の総数では盛岡、東京、久慈となった。女子は盛岡が圧倒的に多く、総数でも同じ傾向を示し、前回とは違って、意識上のJターン現象が生じている。高校Aでは盛岡、仙台、東京が1位選択の順で、総数では、仙台、盛岡、東京となって北上市と同数(東京)となっている。男子B高校は、仙台、盛岡、東京、北上、花巻、の順で、総数(1~3位)では仙台、盛岡、東京、花巻、千葉となり北上は7番目に転落する。専門Aでは仙台、花巻、盛岡、東京が1位の順、総数で、盛岡、仙台、東京となる。

前回よりは県外、大都市志向性は減少してきているが、希望する職場、職種が少ないことが流出希望となっている^{*}。しかし、県内、都市への希望が前回より上昇している。北上市の労働吸収力は金融緊縮めによる安定低成長経済政策のあおりを受けて、誘致の停滞、延期、

* A高校(昭和47年)		県内(X)	県外(Y)	計	X/(X+Y)×100	$\chi^2=3.24$ df=1
	希望	47	130	177	26.6%	(N.S)
	実際	53	95	148	35.8%	
B高校	希望	63	201	274	23.0%	$\chi^2=3.30$ df=1
	実際	81	180	261	31.0%	(N.S)

中止などから、人員整理なども加わってますます低下している。6) それ故、当分県外流出は減らないだろう。市外流出も同じ。

5 都市志向性の強さ

この項目は答えにくかったのか、3, わからないとする者が1/3以上も出たりして失敗したと言える。仮定の設定が現実であり得ないことなので実感として受けとられずに、わからないとする者が多くなったことが面接法で明らかになった。傾向としては農山村>都会の職場が全地域で成立したが、中学C女子、僻地中Eの男子、女子、大学Bの男子においては有意差はない。

統計的に有意差は推測できないが、予想した<僻地>では、現実には直面している問題が切実で、この仮定はあくまでも例示にすぎないと説明しても、実際にあり得ないという現実水準に強く引かれて、都市を選ぶ者が多くなったものとみることができる。言葉少なに語る僻地中学生の話の端に他所に行くしかない、どうしようもない、しかたない、という気持が強いことが面接法で明らかになった。

この設問が失敗であったとするのは簡単であるが、待遇の良さと都市志向性の葛藤が3のわからないに現われてくるとも推測される。むしろ、わからないの回答がどのように増減するかで、この対立感情を知ることもできるのではないかと思ひ、第2回目調査にもそのまま変えずに実施した。第2回では、高校A、Bでわからないが急増した。高校A、女子は65%以上のわからないとなり、都会の職場の方が多くなり、高校B、男子では都会の職場を選ぶ比率が増加していた。

このような前提条件を考慮しても、<都市>では、都市>農山村、の関係を示す都市志向性を待遇の良い農山村を選ばずに強く持っているだろうという仮説は支持されなかった。

又、どちらとも言えない結果が出たのは、経済的優位なものへの誘意性(経済的な価値観)が強いのかも知れないが、面接法や項目の変更によって今後追求されねばならない。

特記すべきは高校Aの女子が都会の職場を多く選んでいる第2回調査の結果である。女子は文化の低きより高きへ流れる:更に女子の流出は過疎に対する歯止めがきかないという俗説が意外と経験的真實性を持っているかも知れないという一例となるかどうかである。これも方法的に工夫して追求しなければならない課題となろう。

6 経済的収入と都市志向性

給料の額を具体的に示して、前回の抽象性を取り除いたので、比較的是っきりした回答が得られた。学校段階別、専門別、性別で明らかな差が現われた。1回目、2回目の比較では学歴別の初任給の平均(相場)が基準となっているらしく、それに依拠してひびかれる。インフレで2回目は全員が、賃銀の高い水準へ回答しているのが、現実的で時代の相場に敏感な青少年の一面がよく現われている。

第1回目では、青少年の居住する地域の生産性の高低と学歴別基準が強く働き、性差も就職可能性のある職種の賃金相場に影響を受けていることが興味深い。中央値と分布でみると、中学B、D、Eは都市の給料3万円に対し、42,000円が中央値となり分布する。中学C(市内農村部)のみ36,000円が最も多く高い方に多く分布する。都市志向型…待遇が良ければ農山村に行ったり、残ったりしてもいい一悪ければ都市を(裏)選ぶが多数を占めるが、

6) 北上市役所 北上の統計 昭和49年度

家庭の事情、都市生活の不安などもあって地元志向型…待遇が悪くても農山村に行ったり、残ったりしてもいい—というのがある数を示している。中学B、C、D、市内、周辺の生徒には地元志向が少数でも存在する。これは、自分の居住環境が生産性や職場などに比較的恵まれている現実認識に立っているものだろう。しかし、僻地中Eには1名も地元志向型は居なかった。これは2回目も同じであった。炭焼も減び、山林の仕事も減るばかり、畜産も期待するほどではないし、狭い生産性の低い農地、働らくべき工場もない貧しい地域に住み、嫌というほど貧困のきびしさ、わびしさを味わっている青少年は農山村に夢を持つこともしなくなっているのだろう。7) 自分の今住んでいる農山村には余程の条件(収入)が良くなければ行きたくないし、残りたくないと決心しているようであった。

一方、高校になると高卒の初任給が一般に中卒より高いので、高校B男子は42,000円、をピークにどちらかというが高収入の方に寄った分布をし、初任給で低くなっている高校A女子は36,000円が中央値でその近傍に分布している。相場に忠実に反映していることが判る。男子と比べ、地元志向型が割合が高くなっており、逆に男子は都市志向型が断然多く収入が高くなければ農山村は嫌忘る傾向が強い。専門Aは女子でその専門性を生かす為には収入が低くとも地元志向型—農山村でもよいとする者が増加し、山が2つある分布をする分極化が現われている。都市志向型と地元志向型(農山村)とが共存している。専門Bにもそのような傾向が僅かに見られるが、女子より男子の方がはっきり収入の多い方に分布が寄ってきている。しかし、専門Aと同様にその専門性を生かそうとする傾向が伺われる。社会的責任、役割の自覚、理想に生きようとする意志も働らくと考えられる。

第2回目はインフレによるベースアップもあり、初任給の大巾アップの給与基準の上昇から、現実の相場が優先し、全部が10、もっと多ければに分布の中央値がきている。

僻地中Eは前回同様、都市志向型が圧倒的で、地元志向型は皆無であった。しかるに、市内高校Aも同様都市志向型が占めてきている反面、高校B男子には相変らず地元志向型が少ないながらも存在しているのが目立っている。専門A女子も地元志向型がなお根強く残っているのが特徴として見出される。

仮説の農山村居住者の都市志向は地元志向より弱いだらうという予想は逆になって、成立たないことが明らかになった。都市居住者も経済的収入の多いことが就職の選択動機になることが伺える。これも仮説とは逆になって、仮説の設定が甘いことがはっきりした。

前者、農山村の青少年は生活の成り立たない農山村を実感として見切りをつけ、都市の青少年は現代的経済観念が優位でそれが選択の動機となっているようだ。こちらの予想は妥当性を持っていると思われる。

7 流出理由

自我関与の強さによって、すなわち流出する人を自分を含めて考えるか、他人のことと考えるかによって答えが異なってくるだろう。(1)自分も含めて考える場合、3. 便利で娯楽が多くて面白い、6. 都会にあこがれて、などの割合が少なくなる。逆に(2)他人のことと考える場合、1. 希望する仕事、職場がない、2. 生活が成り立たない、などが比率として低く出ることが予想される。

7) 大牟羅、菊地武雄 共著 荒廃する医療と農村 P41—57 岩波 1971

この著書中にとりあげられた作文に見られる現実認識及びその表現力は余程機会に恵まれない限り、見つけることは難しい。

これは、明確に違いとなつて出て来ていて予想がある程度適中している。

僻地中Eでは、圧倒的に1が多く、3、6が少なくなっている。又割合としては2の比率は他地域のそれと比べると高いと言える。

他の都市部の中学、高校、専門いずれも、3と6が多く出現していて、1は僻地中と同じかやや低くなっている。2回目調査では、この傾向はますます明瞭に出てきており、僻地中Eは1、2が高比率で、3、6が低くなっている。都市部の中学、高校、専門とも、高校Bのみ1が最高率で次が6、他は6が最も比率が高くなっている。農山村の青少年が1、2の理由で流出していることを認識する度合が低いのである。勿論、自分も含めていて、自分の気持=理由も無意識に答えの選択に当って投射されていると思われるが弁別は難かしい。面接法でもなかなかつかめなかった。

8 「主体性のある職業」への志向性⁸⁾

自由に自分で経営できるという文で主体性を表現しようとしたのだが、この設問は都市志向性の強さの項目と同じように、3、わからないが多く出てしまい失敗した設問と言えよう。主体性という含意より、農山村の経営と一流会社のサラリーマンという極端な、見え透いた対比もあまりうまくなかったようだ。

僻地中Eでは過半数が、わからない、という答えで比較分析に耐えられない。中学B、C、Dもかなり高率のわからないが多く、高校専門でも同様傾向を示した。わからないと一応除外してみても、総ての学校、性において、 $\text{自営} > \text{サラリーマン}$ を現わしている。2回目の高校Aは女子で、かつ、不明が54名もいるのだが、 $\text{自営} = \text{サラリーマン}$ の選択数となっている。女子のサラリーマン志向というか、自営することへの現実的可能性のないことも加わって、このような結果になったのではないかと、面接法などにより推測することが出来る。

この項目は更に吟味検討の余地がある。

9 労働観、金銭観、親子観

近代的合理主義が端的に最も強く出ているのは1-1 要求-やる、という答えであろう。この答の比率で比較すると最も高いのが、高校B男子で23%、次にC中学、A高校でも20%台、B中学、D中学、専門Aと10%台になり、最も低いのが僻地中学Eで9%であった。都市>僻地、は予想通りだが、高校>中学、は必ずしも成立しない。女子<男子は常識でも想定されるが、結果では必ずしも言い切れない。

最も多い組み合わせは2-1 しない-やる である。これは自分からは労働の報酬を正当に要求はしないが、親だったらやるというもので、本来、労働に見合った賃金は親子でも支払うべきだという労働、金銭観である。

従って、1-1 要求-やる にまで行かないけれど、ややそれに近い態度や労働観の現われとも思われる。

しかし、僻地中Eではこれに対する答えの比率は比較的高い45%を示している。

これが育って、流出していった都市や職場での生活、職場の人間関係でも行動化されれば、適応性は高くなるのだが、むしろ抑制されてしまい、適応上の困難、障害となることが

8) 片岡徳雄 現代の子どもの考え方の特徴を分析する —過疎地の生徒調査から— 1971. 3
教育心理研究 P13-20 片岡氏の用いた調査項目を比較の為に用いたが、わからないが多く、氏と同様にはっきりした結果が出なかった。7)及び8)

多いように思われる。9) 騙されたり、麻胡ついたり、スムーズに都市の生活に融け込めない原因となる場合が多い。市内でも農村部になると矢張り1-1要求-やる が低いようである。農作業のような家内労働、共同体の一体感の強い労働に対しては、打算的合理的な割り切り方が伝統的にも未だ抵抗があるものと考えられる。

以上、結果の考察から、犯罪、非行の発生の促進、抑制条件としての間接的指標として使えるものは、次の項目であろう。

- ① 出かせぎ
- ② 職業選択
- ③ 就職場所、相談相手
- ④ 給料と都市志向性
- ⑤ 流出理由（自分、他人）
- ⑥ 主体性のある職業への志向性（質問内容を改良する）
- ⑦ 労働観、金銭観、親子観（もう少し多面的にする）

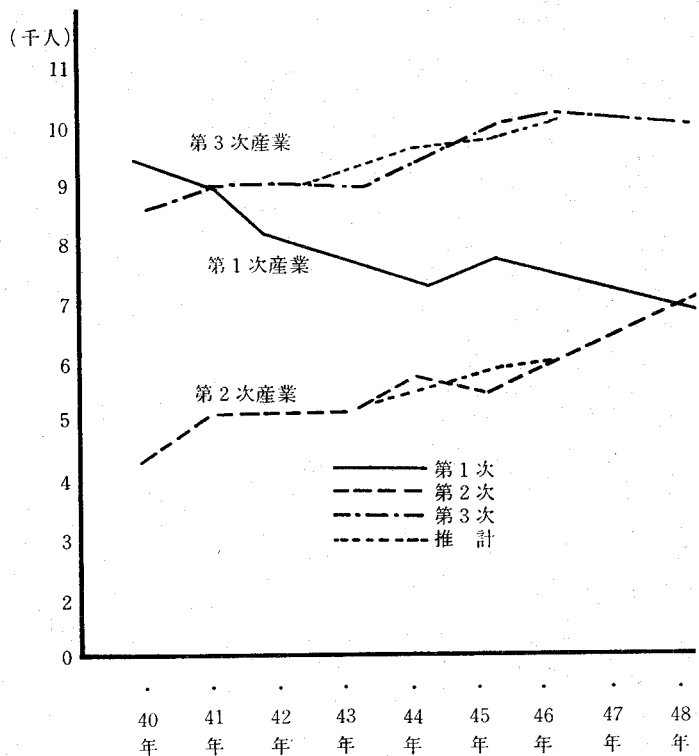
VI 要 約

ここでは、犯罪・非行発生の条件、抑制する条件についての間接的(一般的)指標を、特に ②、中卒者、高卒者の進路状況、及び職業、進路の将来的展望とそれにかかわる意識構造、③都市(北上)の青少年労働力の吸収力、定着性について重点的に調査結果にもとづいて論述してきた。

前の二つの報告と併せて、間接的指標の調査時点での実相を総合し、整理しておきたい。

① 産業構造、人口、所得工業化率

産業別就業人口では図1のごとく、昭和48年に第2次産業が第1次産業を追い



9) 永山則夫 無知の涙一金の卵たる中卒者諸君に捧ぐー 合同出版 1971 (角川文庫版あり)
 これには青森県から集団就職列車で上京した少年の都会生活の適応の難かしさが描かれ、かの有名な連続射殺事件後、拘置中に書かれたものである。少年の内面が鋭く描かれている。
 *北上の統計より

抜いて、遂に2位になった。その差は僅かであるが。

所得比率（工業化率）では次表の通りで、急速に工業化が進んでいる。現在は経済的不

表2 北上市の工業化率*

昭和42年	155.1	(第1回)
昭和44年	201.1	(第2回)
昭和46年	217.6	(第3回)
昭和48年	417.9	(第4回)

*工業化率=2次生産所得/1次生産所得

況、金融引締めもあって、誘致企業の進出の鈍化、計画縮小、中止延期などが多くなり停滞している。

②, ③, 都市における**進学率が高まり(90%を超える)中卒者の就職者が漸減していることも関係しているが、北上市内の労働市場は地元、周辺の青少年の希望している職種、職場の面からみると、魅力が乏しく過半数が流出している。ただ、単に企業が進出して、働らく場所が用意されただけでは、青少年の労働力を吸収する力とはなり得ない。

④ 青少年の社会化深度と都市の類型

東北大安倍淳吉等の理論によっても、北上市はSBを含むSC型の都市と言える。職業選択における地域開放性、周辺からの労働力も僅かだが吸収する。しかし、一家を築いた者が地元に戻るには転職することが多く、その社会化深度はⅢ段階に移行しつつある状態であろう。

以上のことから、これらの指標は間接的であるが、犯罪・非行の発生より抑制の方に強く働くようである。青少年の人口が流出して少ないことは、加害者にも被害者にもなる機会が少ない、すなわち、犯・非行の成立は実行者が少なければ減少する。

なお、直接的指標、①組織暴力の活動、進出状況、に注目すべき動きがあったので付記しておく。昭和49年1月、神戸に本部のある広域暴力団、山口組が岩手県で唯一の進出拠点を北上市の佐々木組(約20名)においたことである。

佐々木組長は現在、服役中であるが、賭博、覚せい剤を資金源にしている。盃をかわしただけで本格的に組織化を進めているに至っていないが、昭和49年12月に山口系組員10数名余が、地元暴力団との抗争、ナワ張り争いに応援に来ている。

これは、最も憂慮すべき状態であり、この指標こそ最も強力、かつ影響力があるので、警察、地元住民も一体となって防止協力体制を組む必要がある。

この暴力団の組員と暴走族「キャツアイ」;北上市、50人余のメンバー、リーダー遠藤某(22才)、との結びつきがあり、今後どのように発展するか注目されている。

既に、恐喝、傷害で同グループの5人(少年1人)が逮捕されている。

**進学率 昭和46年……A中 88.0%、C中88.1%、D中 96.1%、E中19%、 A高47.1%
B高校 1%、9C校 80%、 昭和48年……A中 95%、E中 23%、 A高 59.2%
B高校 9%

付表1 出 かせ ぎ (46年)

校 名	生徒数	性別	父	母	兄	姉	合 計	
市内 中学校	B	50	男	6			6	
		39	女	1			1	
		89	計	7			7	
	C	31	男	6	0	1	1	8
		44	女	3	2	1	1	7
		75	計	9	2	2	2	15
周辺 中学校	D	98	男	13	1	8	8	30
		62	女	3	0	2	0	5
		160	計	16	1	10	8	35
僻地 中学校	E	31	男	10		8	2	20
		24	女	3		8	4	15
		55	計	13		16	6	35
市内 高校	A	177	女	17		4	2	23
		177		17		4	2	23
	B	274	男	24	1	10	2	37
		274		24	1	10	2	37
市内 専門	A	58	女	2				2
		58		2				2

付表1-2 出 かせ ぎ (49年)

校 名	生徒数	性別	父	母	兄	姉	合 計	
市内 中学	B	49	男	2		2		4
		42	女	4				4
		91	計	6		2		8
僻地 中学	E	21	男	5		9	3	17
		24	女	7	1	8	5	21
		45	計	12	1	17	8	38
市内 高校	A	88	女	5				5
		88	男	5				5
	B	282	男	27	2	2	1	32
		282	女	27	2	2	1	32
専 門	A	86	女	5	1			6

付表2 職 業 選 択

1 あなたは中学を卒業したら（進学の人には進学後）どんな仕事につきたいですか。仕事の名まえを3つあげてください。

	順位	性別	1職名(人数)	2番	3番	4番	5番	6番	選択数
市内中B	1位	男女	会社員7 看護婦10	技術者6 美容師5	整備工4 スチューデス4	公務員4 和洋裁4	パイロット4 保母2	農業4 デザイナー1	21 14
	2位	男女	機械7 美容5	サラリー6 看護婦4	記スチュー3 スチューデス	パイロット2 保母2	大薬工2 剤師2	刑事2 プログラマー1	23 12
	3位	男女	サラリー6 デザイナー5	建築師2 プログラマー3	電気工2 美容師2	大スチュー2 スチューデス	特派員2 訳2	医薬2 剤師1	20 12
市内中C	1位	男女	建築大工5 美容師8	修理整備3 デザイナー6	農 業3 看護婦5	電気技師2 保母5	畜 産2 事務員4	調 理 師2 バスガイド3	16 16
	2位	男女	運 転 手3 事務員11	整備工2 美容師5	技 術 者2 看護婦4	農 業 者2 調理師4	会 社 員2 和洋裁3	ブ ー ス 保 母3	18 14
	3位	男女	農 業4 和洋裁5	先 理 生3 美容4	整 備 工2 バスガイド4	看 護 婦4	事 務 員3		10 12
周辺中D	1位	男女	整備士9 会社事務11	サラリー8 看護婦6	機 械 8 理美容師5	設 計 師5 和洋裁4	農 業 者4 保母4	運 転 手4 バスガイド3	30 20
	2位	男女	整備士11 会社員7	会 社 員6 美容5	店 員 5 農 業 5	工 業 者4 デザイナー3	機 械 4 店 員 3	建 築 3 和洋裁2	25 23
	3位	男女	建 設 業4 会社員6	サラリー4 理美容5	エン지니어3 デザイナー5	農 業 者4 和洋裁2	公 務 員3 看護婦2	店 員 3 歌手1	28 22
僻地中E	1位	男女	修 理 工5 和洋裁12	機 械 工4 美容4	大 工 4 バス車掌2	バ ス 運 転 3 看護婦1	建 築 2 保母1	会 社 員 2 調理1	10 7
	2位	男女	大 和 工4 和洋裁6	建 築 業2 美容4	すし職人2 バスガイド2	進 学 1 看護婦2	保 母 1		4 5
	3位	男女	運 転 手1 和洋裁3	建 具 職 1 バスガイド2	調 理 1	看 護 婦 1	美 容 師 1		3 5
市内A高	1位	男女	事 務 員 43	保 母 14	和 洋 裁 7	看 護 婦 6	販 売 6	プ ロ グ ラ マ ー 5	49
	2位	男女	販 売 21	事 務 18	洋 裁 7	保 母 6	交 換 手 5	サ ー ビ ス 業 3	45
	3位	男女	販 売 17	事 務 11	保 母 6	現 場 作 業 5	美 容 師 4	看 護 婦 3	31
市内B高	1位	男女	電 気 関 係 25	エ ン ジ ン 23	工 業 関 係 21	公 務 員 14	会 社 員 13	自 動 車 関 係 13	58
	2位	男女	会 社 員 14	商 業 関 係 13	公 務 員 10	電 気 関 係 10	技 術 関 係 9	事 務 系 8	19
	3位	男女	商 業 19	公 務 員 11	農 業 10	技 術 者 6	コ ッ ク 6	サ ラ リ ー 5	17
市内A専門	1位	男女	保 母 29	幼 稚 園 8	看 護 婦 3	事 務 員 4	デ ザ イ ナ ー 1		18
	2位	男女	保 母 13	看 護 婦 8	幼 稚 園 7	事 務 員 4	美 容 師 3	ガ イ ド 3	17
	3位	男女	保 母 6	幼 稚 園 7	看 護 婦 4	事 務 員 5	農 業 2	生 活 改 良 2	18

付表2-2 職業選択(49年)

	順位	性別	1 番	2 番	3 番	4 番	5 番	6 番	選択数
市内 中学 B	1位	男	公務員11	技術者6	会社員4	刑事4	機械工4	整備工3	21
		女	和洋裁7	看護婦6	美容師4	調理師3	保母2	音楽2	20
	2位	男	農業5	公務員4	電気関係4	会社員3	運転手3	調理師2	20
		女	和洋裁12	美容師3	調理師2	教師2	保母2	会社員2	20
	3位	男	公務員4	農業3	運転手3	会社員2	ディスク ジョッキー2	調理師2	19
		女	保母3	経理2	調理師2	イラスト2	放送1	洋裁1	15
僻地 中学 E	1位	男	大工3	機械工3	電気2	タイル工2	パイロット2	自動車整 備	13
		女	大店員3	保母教師3	洋才3	看護婦3	美容師3	機械工2	14
	2位	男	電気3	機械3	大工3	船員2	技師2	整備工1	10
		女	看護婦4	洋裁3	理容師3	事務員3	店員2	機械工2	14
	3位	男	教師3	大工3	機械2	電気1	整備1	タイル工1	8
		女	大店員3	家事手伝3	農業3	調理師2	美容師2	商業2	12
市内 高 A	1位	男							
	女	事務6	栄養士5	看護婦4	洋裁4	理美容師4	社会福祉4	22	
	2位	男							
女	事務7	看護婦4	銀行員3	社会福祉2	公務員2	保母1	16		
3位	男								
女	看護婦4	事務員2	美容3	保母4	サービス2	デザイナー 1	14		
市内 高 B	1位	男	公務員43	会社員18	電気系16	技術者13	化学系12	自動車系8	49
	女								
	2位	男	公務員40	会社員17	電気系13	サービス6	国鉄5	技術者5	50
女									
3位	男	公務員17	サービス16	農業15	自動車系7	電気系4	放送局3	51	
女									
市内 専門 A	1位	男							
	女	保母51	幼教師23	看護婦3	記者1	養護教師1	事務員1	10	
	2位	男							
女	保母40	幼教師6	看護婦3	小教師3	衛生士2	店員2	21		
3位	男								
女	保母23	小教師4	幼教師3	栄養士3	バスガイ ド3	看護婦2	31		

付表3 相 談 相 手 (46年)

就職や進学の相談は主にだれとしますか。次のうちから相談する人を選んで○をつけてください。

校 名	性 別	1. 父	2. 母	3. 兄姉	4. 親せき	5. 先生	6. 友だち	7. 卒業生	8. その他
市内 中学	B	男女計 34 8 42	34 23 57	7 9 16	1 1 2	6 1 7	14 8 22	8 1 9	1 1 2
	C	男女計 12 18 30	14 33 47	8 15 23	1 2 8	4 7 11	10 21 31	1 3 4	3 3
周辺 中学	D	男女計 12 58 70	28 70 98	15 22 37	4 4	4 13 17	17 30 47	1 4 5	1 1
僻地 中学	E	男女計 26 18 44	26 18 44	13 13 26	2 2	11 15 26	11 14 25	2 1 3	
市内 高校	A	男女計 57	108	34	2	34	74	5	1
	B	男女計 182	166	89	18	110	95	13	15
市内 専門	A	男女計 19 19	34 34	8 8		4 4	19 19		4 4
大 学	B	男女計 15 20 35	19 16 25	4 10 14		9 15 24	7 9 16		1 4 6

付表3-2 相 談 相 手 (49年)

校 名	性 別	1. 父	2. 母	3. 兄姉	4. 親せき	5. 先生	6. 友だち	7. 卒業生	8. その他
市内 中学	B	男女計 22 10 32	20 35 55	11 6 17	4 4 4	5 4 9	10 10 20	1 1	1 * (3) 1 (1) 2 (4)
	E	男女計 17 16 33	18 20 38	7 14 21	1 1	11 11 22	3 9 12	1 2 3	
市内 高校	A	男女計 23 23	51 51	18 18	5 5	4 4	34 34		1 1 * (3)
	B	男女計 158 158	137 137	53 53	15 15	54 54	55 55	8 8	10 10 * (2)
専 門	A	男女計 38	56	18	3	33	51	4	4 * (2)

* () 内無記入

付表4 就 職 場 所 (希望) (46年)

3 卒業してから就職する場所を自由に選べるとしたら、あなたは次の地域のなかからどこを選びますか、3番目まで選んで書いてください。

		順位	宮古	八戸	久慈	大船渡	釜石	葛巻	岩泉	盛岡	北上	花巻	水沢	一関
市内中学 B	男	1 2 3 計	3				1 1		1 1	7 6 6 19	13 7 2 22	8 7 1 15	1 1 2	1 2 3
	女	1 2 3 計	1 1 2	1 1						7 8 7 22	10 2 5 17	4 7 1 12	1 2 3	
市内中学 C	界	1 2 3 計		1 1	1 1					4 3 2 9	8 5 2 15	3 5 1 9		1 1
	女	1 2 3 計					1 1			6 12 3 21	5 2 4 11	3 4 7 14	4 4 4	2 1 3
周辺中学 D	男	1 2 3 計	4 4	1 1	1 1	1 1	2 3		1 1	19 14 10 43	20 1 10 31	3 13 6 22	4 2 6	2 2
	女	1 2 3 計								6 10 5 21	11 4 7 22	2 6 2 10	2 3 2 7	1 1
僻地中学 E	男	1 2 3 計	1 1 2 4		1 1				1 1 4	4 5 2 11		1		
	女	1 2 3 計	4 4 8			1 1			1 1 3	6 4 6 16		1 1		
高校A	女	1 2 3 計	1 2 3		1 1					27 34 26 87	17 8 26 51	3 5 15 19	5 5	1 1 2
高校B	男	1 2 3 計	1 1 1 3	2 2		1 1	1 1		3 3	25 16 24 65	15 19 20 54	20 12 11 43	1 2 5 8	1 1 2
専門A	女	1 2 3 計	1 2 3				1 1 1 3	1 1		12 10 6 28	5 2 6 13	4 2 4 10	3 1 2 6	1 1 2
専門 B	男	1 2 3 計	1 1 2	4 4		2 2		1 1	2 2	10 1 4 15	2 2 2	1 1	1 1	1 2 4
	女	1 2 3 計	1 1	1 1		3 3		2 2	1 3	10 5 6 21	1 1 2	2 2	2 3	1 1 2

付表4-1(2)

		順 位	仙台	福島	青森	東京	川崎	横浜	千葉	埼玉	静岡	名古屋	大阪	その他
市内中学 B	男	1 2 3 計	10 6 3 19	1 1	1 1	5 5 4 14	1 1 2	4 1 4 9	1 7 8	3 3	1 1 1 3	1 2 3	1 2 3	3 2 3 8
	女	1 2 3 計	5 5 3 13	1 1 2		5 2 2 9	2 1 3	3 2 4 9	1 1 2	3 2 5	2 2	1 1 2	1 2 4 7	2 2 4
市内中学 C	男	1 2 3 計	2 1 2 5	1 2 3	2 1 3	4 4 2 10	5 5	2 3 1 6	1 1	1 2	2 2	2 1 3		4 2 8 14
	女	1 2 3 計	8 4 3 15	1 1 2 4	1 1	1 3 2 6	1 1	1 5 3 9	1 2 4 6	3 1 4	6 6	1 1 2	1 1	1 2 8 11
周辺中学 D	男	1 2 3 計	5 8 10 23	1 1	2 2 6	13 4 4 21	4 6 3 13	12 8 4 24	6 5 7 18	6 4 10	6 8 5 19	2 3 2 7	1 4 5 10	8 1 14 23
	女	1 2 3 計	10 4 6 20	1 1		10 6 1 17	2 2	2 6 4 12	1 3 4	5 2 2 9	5 4 2 11	2 1 3	5 8 13	3 2 8 13
僻地中学 E	男	1 2 3 計	1 1		1 1	7 4 3 14	1 1	4 4 1 9	4 1 5	1 1	1 1 3 5	1 1 3 5	1 1 2	6 1 7
	女	1 2 3 計				5 3 2 10		1 1 2	2 2	1 2 4	5 2 4 11	1 1 1 3	1 1	
高校A	女	1 2 3 計	42 42 26 110	1 2 2 5	2 2 3 7	42 27 29 98	1 2 3	15 18 11 44	7 8 8 23	1 11 5 16	5 10 5 20	2 3 2 7	3 4 7	10 2 11 23
高校B	男	1 2 3 計	49 40 22 111	1 5 5 11	3 1 1 5	33 20 13 66	11 7 7 25	14 22 18 54	19 35 14 68	12 14 6 32	18 24 22 64	9 18 17 44	9 8 16 33	22 12 40 74
専門A	女	1 2 3 計	9 14 7 30	1 1	1 1	7 2 7 16		3 4 1 8	2 5 4 11	2 2 5 9	2 5 1 8	1 3 4	1 1	6 3 1 10
専門 B	男	1 2 3 計	3 2 5 10	1 1	3 1 4	2 1 3		1 1 2	1 1		1 1 2	2 2	1 1	4 1 2 7
	女	1 2 3 計	6 4 2 12		4 4	2 4 6		1 1 2	2 1 4 7	1 2 2 5	4 3 7			5 2 4 19

付表4-2 就 職 場 所 (49年)

	性	順 位	宮古	八戸	久慈	大船渡	釜石	葛巻	岩泉	盛岡	北上	花巻	水沢	一関
市内中学 B	男	1 2 3 計			1 1		2 2			8 9 6 23	19 8 8 35	2 9 4 15	1 1 5 7	
	女	1 2 3 計	1 1			1 1				6 3 3 12	19 1 2 20	2 14 2 18	2 4 6	1 1 2
僻地中学 E	男	1 2 3 計	1 1		3 2 5					4 7 3 14	1 1		1 1	
	女	1 2 3 計	2 5 1 8		1 4 2 7				2 1 5 8	13 4 2 19	2 1 3	1 1		
市内高校 A	男	1 2 3 計												
	女	1 2 3 計								22 8 15 45	8 8 7 23	1 2 3	2 2	1 1 2 4
B	男	1 2 3 計	1 1		1 1 1		2 1 3			47 42 25 119	28 13	20 21 27 68	3 5 4 12	1 3 7 11
	女	1 2 3 計	3 1 1 5	1 1 1	1 1 2	1 1 1	1 1 2		2 2 2	8 17 16 41	5 8 3 16	13 4 2 19	2 1 1 4	1 3 3 4

付表4-2-2(2) 就 職 場 所

	性	順 位	仙台	福島	青森	東京	川崎	横浜	千葉	埼玉	静岡	名古屋	大阪	その他
市内中学 B	男	1 2 3 計	7 3 2 12			4 1 6 11	1 1	2 2 4	1 3 4	1 1 2	1 3	1 1	1 2 3	2 3 5 10
	女	1 2 3 計	5 1 7 13	1 1		2 1 1 4	3 3	1 2 3	1 4 6	1 1 3	3 2 2 8	1 1		1 3 8 12
僻地中学 男	男	1 2 3 計	1 3 1 5		1 1 2	10 1 2 13	3 3	2 1 3	1 1 1		3 3 6	1 2 3	2 2	1 2 3
	女	1 2 3 計				3 2 1 6				2 1 1	2 2 4			2 1 5 8
市内高A	女	1 2 3 計	24 22 9 55	1 3 4	1 2 3	10 7 6 23	1 1	4 7 3 14	4 3 7	2 2 3 7	2 4 2 7	1 4 5	1 1 3	3 2 10 15
	男	1 2 3 計	63 45 43 151	3 8 2 13	3 2 6	43 23 27 93	5 8 3 16	7 15 12 34	17 21 17 55	3 20 12 35	17 11 17 45	1 6 10 17	2 5 5 12	13 12 25 50
専門A	女	1 2 3 計	13 19 7 39	1 2	2	8 4 9 11	1 1 1 3	4 3 4 11	1 3 3 7	2 2 2 6	3 3 4 10	1 3 4	3 1 4	10 11 17 38

付表5 都市志向性の強さ(46年)

4 今かりに、同じ仕事内容の職場が農山村と都会にあったとします。その場合、農山村の職場の給料が都会の職場の1.5倍ぐらいとします。あなたはどちらの職場を選びますか。次の中から1つだけ選んで番号を○でかこんでください。

	性別	1. 農山村の職場	2. 都会の職場	3. わからない	計
市内 中学	B 男女計	22 14 36	13 6 19	15 10 34	50 39 89
	C 男女計	17 13 36	6 12 18	8 19 27	31 44 75
周 辺	D 男女計	43 21 64	17 10 27	38 31 69	98 62 160
	E 男女計	10 6 16	9 5 14	12 13 25	31 24 55
市内 高校	A 男女計	80	32	65	177
	B 男女計	176	33	65	274
専 門	A 男女計	37	11	10	58
	B 男女計	14 20 34	8 8 16	7 10 17 1 11 12	30 49 79

付表5-2 都市志向性の強さ(49年)

	性別	1. 農山村の職場	2. 都会の職場	3. わからない	計
市内 中	B 男女計	18 7 25	6 1 7	25 32 57	49 41 (1) 90 (1)
	E 男女計	7 14 21	5 4 9	9 6 15	21 24 45
市内 高	A 男女計	11 11	17 17	60 60	88 88
	B 男女計	98 98	58 58	120 120	282 * 282 (6)
専 門	A 男女計	61 61	16 16	8 8	86 (1) 86

* () 無記入

付表6 給料と都市志向性(46年)

5 それでは、もし都会の職場の月給が30,000円で、農山村の職場の給料が次のようであれば、あなたは農山村の職場の方を選びますか。都会の職場の方を選びますか。農山村の職場の方を選びたいときは()内に○をつけてください。

	性 別	1. 30,000円	2. 27,000円	3. 24,000円	4. 21,000円	5. 18,000円
中学 B	男	11	3			1
	女	6	3		2	
	計	17	6		2	1
中学 C	男	4	3	1	1	
	女	11	5	1		
	計	15	8	2	1	
中学 D	男	12	6	2	2	2
	女	14	4	2	2	1
	計	26	10	4	4	3
中学 E	男	5				
	女	1				
	計	6				
高校 A	男	46	27	7	4	2
	女					
	計	56	31	9	4	3
専門 A	男	19	18	12	3	1
	女					
	計	19	18	12	3	1
専門 B	男	7	3			
	女	12	8	2	3	2
	計	19	11	2	3	2
	性 別	6. 33,000円	7. 36,000円	8. 39,000円	9. 42,000円	10. もっと多ければ
中学 B	男	11	14	13	17	11*(12)
	女	8	12	14	19	5(8)
	計	19	26	27	36	16(20)
C	男	7	11	10	11	4(3)
	女	14	18	11	13	5(10)
	計	21	29	21	24	9(13)
D	男	23	28	15	31	23(6)
	女	11	18	15	18	6(12)
	計	34	46	30	49	29(13)
E	男	1	3	1	7	1(14)
	女	1	2	4	7	(10)
	計	2	5	5	14	1(24)
高校 A	男女計	52	57	50	45	13(20)
〃 B	男女計	68	96	125	161	124(30)
専門 A	男女計	13	18	14	14	4(7)
〃 B	男女計	4	8	7	9	6
		11	17	14	18	5
		15	25	21	27	11(53)

* () 内無記入

付表6-2 給料と都市志向性(49年)

	性 別	1. 30,000円	2. 27,000円	3. 24,000円	4. 21,000円	5. 18,000円
市内中B	男女計	5 2 7	1 1			
僻地中E	男女計	4 4				
市内高A	男女計	1 1				
◇ B	男女計	6 6	8 8	2 2	2 2	5 5
専門 A	男女計	28	9	4	2	
	性 別	6. 33,000円	7. 36,000円	8. 39,000円	9. 42,000円	10. もっと多 ければ
市内中B	男女計	3 3	3 3	2 1 3	8 4 12	11(9) 6(4) 17(4)
僻地中E	男女計	2 2	5 5	4 2 6	5 6 11	6 4 10
市内高A	男女計	3 3	5 5	2 2	17 17	* 22(4) 22(4)
◇ B	男女計	4 4	4 4	3 3	16 16	154(7) 154(7)
専門 A	男女計	2 2	5 5	8 8	8 8	13(7) 13(7)

* () 内無記入

付表7 流出理由 (46年)

6 農山村の青少年が都会に就職して出ていきますが、その理由として、あなたは次のうちのどれがあてはまると思いますか。いくつでも○をつけてください。

校名	性別	人数	流出の理由								その他	無記入
			希望する 仕事職 場がない	生活が なりた たない	便利で 楽が多 く面白 い	娯楽 の程度 が高い	教育と 文 化の程 度 が高い	地位を 求めて	都会に あこが れて			
中 学 校	B	男女計	50	28	4	21	11	14	28	6		
			39	23	4	17	10	8	26			
		89	51	8	38	21	22	54	6			
	C	男女計	31	10	1	11	6	5	19	4		
		44	34	9	9	8	4	31	2			
		57	44	10	20	14	9	50	6			
D	男女計	89	43	9	31	16	9	54	6	3		
		62	31	7	22	6	6	46	6	1		
		160	74	16	53	22	15	100	12	4		
E	男女計	31	27	7	10	3	2	8	3			
		24	21	3	2	1		5	2			
		55	48	10	12	2	2	13	5	1		
高 校	A	男女計	177	136	9	72	56	12	117	8	2	
			274	192	11	148	67	26	174	17	1	
専 門	A	男女計	58	41	8	20	11		28	2	1	
			30	27	11	22	10	3	26	2		
	B	男女計	49	25	6	17	9	1	26	3		
		79	52	17	39	19	4	52	5			

付表7-2 流出理由 (49年)

校名	性別	人数	流出の理由								その他	無記入
			希望する 仕事職 場がない	生活が なりた たない	便利で 楽が多 く面白 い	娯楽 の程度 が高い	教育や 文 化の程 度 が高い	地位を 求めて	都会に あこが れて			
中 学 校	B	男女計	49	18	8	16	6	7	25	1		
			41	24	8	7	7	3	26	1	1	
		90	42	16	23	13	10	51	2	1		
高 校	E	男女計	21	19	10	6	3	1	5	1		
			24	23	14	9	3		10			
		45	42	24	15	3	1	15	1			
高 校	A	男女計	88	49	10	23	25	2	64	1	5	
			282	193	19	125	42	9	155	13	6	
専 門	A	男女計	86	60	11	27	16	2	74	4		

付表8 「主体性のある職業」への志向性(46年)

7 もし、じゆうぶん生活のなりたつだけの農地、山林があり都会から遠く離れていても、あなたはそれを自由に経営することができます。一方では都会の一流会社のサラリーマンにあなたはなることができます。としたら、あなたはそのどちらを選びますか。次のうちから1つだけ選んで○をつけてください。

		性 別	1. 農地, 山林の経営	2. 一流会社のサラリーマン	3. わ か ら な い
市内 中学	B	男女計	22 14 36	15 12 27	13 13 26
	C	男女計	20 12 32	2 9 11	9 23 32
周辺中	D	男女計	46 19 65	14 13 27	38 30 68
僻地中	E	男女計	12 4 16	8 2 10	11 18 29
市内 高校	A	男女計	74	48	55
	B	男女計	139	49	86
専門	A	男女計	32	7	19

付表8-2 「主体性のある職業」への志向性(49年)

		性 別	1. 農地, 山林の経営	2. 一流会社のサラリーマン	3. そ の 他
中 学 校	B	男女計	34 21 55	8 11 19	7 6 13
	E	男女計	7 16 23	3 2 5	11 6 17
市内 高校	A	男女計	17 17	17 17	50 * (4) 50 (4)
	B	男女計	133 133	92 92	36 (4) 36 (4)
専門	A	男女計	67	17	2

* () 内無記入

付表9 労働観、金銭観、親子観(46年)

8 花子さんは休みに田んぼの手伝いをしました。お母さんは「まあ、よその人をたのめばえらく金がかかるのに本当に助かった」といいました。「それならお母さん私にお金くれたっていいわね」と花子さんがいいました。あなたならどうしますか。次のうち1つだけ選んで○をつけて下さい。

1. お金を要求する 2. お金を要求しない 3. わからない

9 花子さんは2日間、からだがいなくて困りましたが、手伝いは終わりました。お母さんは「物価があがってすこし苦しいが、まあよくやってくれたね」といいながら私にお金をくれました。もし、あなたがお母さんだったら、お金を子どもにやりますか。次の中から1つだけ選んで○をつけてください。

1. やる 2. やらない 3. わからない

校名	性別	8の答と9の答の組み合わせ									計
		1-1 要求— やる	1-2 要求— やらない	1-3 要求— 不明	2-1 しない— やる	2-2 しない— やらない	2-3 しない— 不明	3-1 不明— やる	3-2 不明— やらない	3-3 不明— 不明	
市内 中学	B 男女計	8 9 17	3 3 6	2 3 5	17 10 27	4 3 7	5 7 12	5 3 8	1 1 2	5 1 5	50 39 89
	C 男女計	8 10 18	4 2 6		6 16 22	4 6 10	3 3 6	4 4 8	1 4 1	1 3 4	31 44 75
周辺 中	D 男女計	16 10 26	1 1 2	5 3 8	40 15 55	6 12 18	12 6 18	10 9 19	1 1 2	7 5 12	98 62 160
	E 男女計	4 1 5			15 10 25	1 1 2	7 6 13	3 2 5		1 4 5	31 24 55
市内 高校	A 男女計	39	1	6	70	17	20	14	3	7	177
	B 男女計	63 63	10 10	6 6	87 87	32 32	25 25	28 28		23 23	274 274
専門	A 男女計	11	1	2	22	8	6	6			58

付表9-2 労働観、金銭観、親子観(49年)

校名	性別	8と9の答の組み合わせ									計
		1-1 要求— やる	1-2 要求— やらない	1-3 要求— 不明	2-1 しない— やる	2-2 しない— やらない	2-3 しない— 不明	3-1 不明— やる	3-2 不明— やらない	3-3 不明— 不明	
市内 中	B 男女計	9 8 17	2		22 18 40	4 6 10	2 3 5	5 4 9		5 1 6	49 41(1) 90(1)
	E 男女計	1 1 2		1	13 16 29	2 4 6	1 1 2	3 1 4		1 1 1	21 24 45
市内 高校	A 男女計	13	2		24	13	14	8		12	88 (2)
	B 男女計	61 61	19 19	2 2	107 107	29 29	12 12	34 34	3 3	11 11	282 (4) 282
専門	A 男女計	31	1		25	9	12	6		2	86

進路調査 () 中学
() 高校 年 男・女 才 長男・長女・その他

※この1年間に出家せぎした
人に○をつけてください。
↓
出家せぎ(父, 母, 兄, 姉)

1 あなたは学校を卒業したら(進学の人には進学後)どんな仕事につきたいですか。仕事の名まえを3つあげてください。

1. _____ 2. _____ 3. _____

2 就職や進学の相談は主にだれとしますか。次のうちから相談する人を選んで○をつけてください。

1. 父 2. 母 3. 兄姉 4. 親せき 5. 先生 6. 友だち 7. 卒業生
8. その他()

3 卒業してから就職する場所を自由に選べるとしたら,あなたは次の地域のなかからどこを選びますか。3番目まで選んで書いてください。その他のときは具体的に書いてください。

1. _____ 2. _____ 3. _____

宮古	八戸	久慈	大船渡	釜石	葛巻	岩泉	盛岡	北上	花巻	水沢	一関
仙台	福島	青森	東京	川崎	横浜	千葉	埼玉	静岡	名古屋	大阪	その他

4 今かりに,同じ仕事内容の職場が農山村と都会にあったとします。その場合,農山村の職場の給料が都会の職場の1.5倍ぐらいとします。あなたはどちらの職場を選びますか。次の中から1つだけ選んで番号を○でかこんでください。

1. 農山村の職場 2. 都会の職場 3. わからない

5 それでは,もし都会の職場の月給が30,000円で,農山村の職場の給料が次のようであるとしたら,あなたは農山村の職場の方を選びますか。都会の職場の方を選びますか。農山村の職場の方を選びたいときは()内に○を1つだけつけてください。

1. 30,000円() 2. 27,000円() 3. 24,000円() 4. 21,000円()
5. 18,000円() 6. 33,000円() 7. 36,000円() 8. 39,000円()
9. 42,000円() 10. もっと多ければ

6 農山村の青少年が都会に就職して出ていきますが,その理由として,あなたは次のうちのどれがあてはまると思いますか。いくつでも○をつけてください。

1. 希望する仕事, 職場がない 2. 生活がなりたたない 3. 便利で娯楽が多く面白い
4. 教育や文化の程度(ていど)がたかい 5. 地位を求めて 6. 都会にあこがれて
7. その他()

7 もし,じゆうぶん生活のなりたつだけの農地,山林があり都会から遠く離れていても,あなたはそれを自由に経営することができます。一方では都会の一流会社のサラリーマンにあなたはなることができます。としたら,あなたはそのどちらを選びますか。次のうちから1つだけ選んで○をつけてください。

1. 農地, 山林の経営 2. 一流会社のサラリーマン 3. その他()

8 花子さんは休みに田んぼの手伝いをしました。お母さんは「まあ,よその人をたのめばえらく金がかかるのに本当に助かった」といいました。「それならお母さん私にお金くれたっていいわね」と花子さんがいいました。あなたならどうしますか。次のうち1つだけ選んで○をつけてください。

1. お金を要求する 2. お金を要求しない 3. その他()

9 花子さんは2日間,からだがいなくて困りましたが,手伝いは終わりました。お母さんは「物価があがってすこし苦しいが,まあよくやってくれたね」といいながら私にお金をくれました。もし,あなたがお母さんだったら,お金を子どもにやりますか。次の中から1つだけ選んで○をつけてください。

1. やる 2. やらない 3. その他()